

JOYO BANK NEWS LETTER

2025年4月4日

「サステナブル預金」の取り扱い開始について

常陽銀行（頭取 秋野 哲也）は、4月7日（月）より、環境・社会課題の解決を通じて持続可能な社会の実現を目指すお客さまの活動を支援する取り組みとして、「サステナブル預金（以下、本商品）」の取り扱いを開始します。

当行およびめぶきフィナンシャルグループは、「地域とともにあゆむ価値創造グループ」を長期ビジョンに掲げ、今後ともステークホルダーの皆さまの課題に寄り添い、ともにあゆみ解決することで、新たな価値を創り続け地域社会の持続的成長に貢献してまいります。

記

1. サステナブル預金について

本商品は、当行がお客さまからお預かりした資金を、環境改善や社会課題解決が見込まれる事業への融資金として充当する預金商品です。

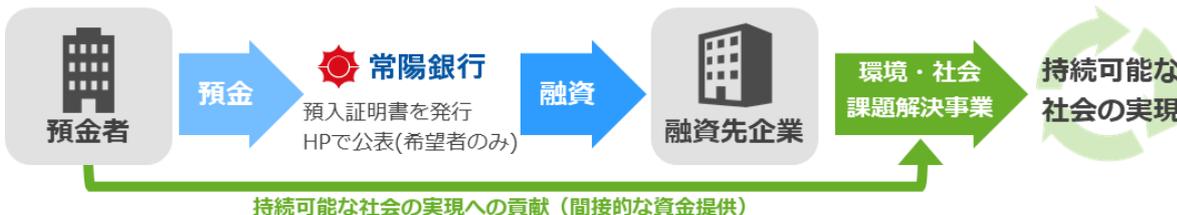
お客さまは、本商品を通じて環境改善・社会課題解決事業に間接的に貢献いただくことが可能です。

本商品をご利用のお客さまを当行ホームページ上で公表し、また本商品をご利用のお客さまあてに「預入証明書」を発行いたしますので、対外的なPRにもご活用いただけます。

当行は、本商品の導入にあたり、「常陽銀行サステナブル預金フレームワーク※」を策定し、株式会社日本格付研究所（JCR）からセカンド・オピニオンを取得しております。

※ 「常陽銀行サステナブル預金フレームワーク」については [こちら](#) をご参照ください。

【スキーム図】



2. 商品概要

商品名	サステナブル預金	
対象者	法人のお客さま	
種類	円定期	米ドル定期
対象預金	自由金利型定期預金（大口定期）	常陽自動継続型外貨定期預金
募集金額	50 億円	15 百万米ドル
募集期間	2025 年 7 月 31 日（木）まで ※募集期間中であっても、募集金額に達した場合は受付を終了いたします。	
対象通貨	日本円	米ドル
預入金額	1,000 万円以上 ※1 名義につき上限 3 億円	10 万米ドル以上
預入期間	6 カ月または 1 年（期日指定不可）	
適用金利	預入日の店頭表示金利	預入日の店頭表示金利に 1.00%を上乗せ
為替手数料	—	預入時：0.5 円（0.5 円優遇） 払戻時：1 円
本預金の 充当対象	① 再生可能エネルギー分野のうち太陽光発電事業に対する 融資金 ② 第三者機関から国際原則等に関する評価又は第三者意見を 取得しているグリーンローン、サステナビリティ・リンク・ ローン	
第三者評価機関	株式会社日本格付研究所（JCR）	

※本商品の詳細は、添付のチラシをご参照ください。

以上

サステナビリティの取組みに、預金という選択肢



サステナブル預金

募集期間 ▶ 2025年7月31日(木)まで

 **円定期**

募集金額 50億円

 **米ドル定期**

募集金額 15百万米ドル

- ✓ お預入れいただいたご資金を、環境・社会課題の解決が見込まれる事業への融資に充当する預金商品です。
- ✓ サステナブル預金にお預入れいただくことで、持続可能な社会の実現に貢献する取組みの機会をご提供いたします。
- ✓ サステナブル預金をご利用のお客さまを当行ホームページ上で公表いたしますので、対外的なPRにもご活用いただけます。

サステナブル預金 商品概要

種類	円定期	米ドル定期
対象者	法人のお客さま	
対象預金	自由金利型定期預金(大口定期)	常陽自動継続型外貨定期預金
募集金額	50億円	15百万米ドル
募集期間	2025年4月7日(月)～2025年7月31日(木)	
対象通貨	日本円	米ドル
預入金額	1,000万円以上(上限3億円)	10万米ドル以上
預入期間	6か月 または 1年 (期日指定不可)	
適用金利	預入日の店頭表示金利	預入日の店頭表示金利+1.0%
為替手数料	—	預入時:0.5円 払戻時:1円
充当先	① 再生可能エネルギー分野のうち太陽光発電事業に対する融資金 ② 第三者機関から国際原則等に関する評価又は第三者意見を取得しているグリーンローン、サステナビリティ・リンク・ローン	
第三者評価機関	株式会社 日本格付研究所	
取扱チャネル	店頭のみ	

サステナブル預金のスキーム図



【サステナブル預金のご留意事項】

●米ドル定期について、外貨預金からのお預入れは、他金融機関から預け替えいただいた資金に限ります。 ●お通帳・証書等への記載は、通常の自由金利型定期預金(大口定期)または常陽自動継続型外貨定期預金と同様の内容となります。 ●サステナブル預金としてのお取扱いは、初回の預入期間のみとなります。満期後は、当初預入期間と同じ期間の自由金利型定期預金(大口定期)または常陽自動継続型外貨定期預金として自動継続となり、満期時点の店頭表示金利が適用となります。 ●サステナブル預金へのお預入れは、当行の定める募集期間・募集金額においてご利用いただけます。募集期間中であっても、募集金額に達した場合は受付を終了いたします。 ●サステナブル預金の総受入残高には上限がございます。対象となる融資残高の減少等の要因により、当行の判断で予告なく募集の停止または継続をお断りする可能性がある旨、ご了承ください。 ●サステナブル預金は、原則として中途解約をすることができません。やむを得ず中途解約をされる場合は、当行所定の中途解約利率を適用いたします。 ●対象となる融資残高が、お預かりしているサステナブル預金の合計受入残高を下回る場合、対象となる融資に充当するまでは現金にて管理いたします。 ●サステナブル預金をご利用いただいたお客さまのうち、ご希望があった場合のみ当行ホームページにて公表いたします。掲載内容は、ご住所・お名前(会社名、代表者名)とし、預入金額等については公表いたしません。 ●その他、詳細につきましては当行ホームページに掲載の「常陽銀行サステナブル預金フレームワーク」をご覧ください。

【円定期のご留意事項】

●店頭にて説明書を用意しています。詳しくは窓口までお問い合わせください。 ●預金保険の対象です。

【米ドル定期のご留意事項】

●外貨預金には、為替リスクがあります。 ●外貨預金の払い戻し時には、為替手数料がかかります。※預け入れ時:円を外貨にする場合・・・1米ドルあたり1円(サステナブル預金適用時0.5円)／払い戻し時:外貨を円にする場合・・・1米ドルあたり1円(サステナブル預金適用時1円)。したがって、往復の為替手数料1米ドルあたり2円(サステナブル預金適用時1.5円)がかかりますので、為替相場に変動がない場合でも、払い戻し時の外貨の円換算額が預け入れ時円貨額を下回る「元本割れリスク」があります。 ●外貨定期預金は、外貨で預け入れし、外貨で払い戻しがなされます。為替相場の変動により、対円相場を預け入れ時と払い戻し時で比較して、払い戻しの方が円高となった場合にはその差が為替差損となり、元本を下回る「元本割れリスク」があります。※預け入れ時に比べ払い戻し時の為替相場が円安の場合・・・為替差益発生／円高の場合・・・為替差損発生 ●外貨定期預金の中途解約時は外貨普通預金の利率を適用します。 ●預け入れ時の為替相場はTTS相場、払い戻し時の為替相場はTTB相場といえます。注:外貨定期預金の預け入れ・払い戻し金額が10万米ドル相当額以上の場合には、公表相場とは異なる市場連動相場が適用となります。 ●預金保険の対象外です。 ●利子所得は、法人のお客さまは15.315%の総合課税となります。 ●お申込みの際には、必ず説明書(契約締結前交付書面等)をよくお読みください。

詳しくは、お取引店までお問い合わせください <https://www.joyobank.co.jp/>

株式会社常陽銀行
サステナブル預金フレームワーク

2025年4月 制定

目次

1.	株式会社めぶきフィナンシャルグループのサステナビリティに関する取り組み	3
(1)	株式会社めぶきフィナンシャルグループのサステナビリティに関する方針等	3
(2)	常陽銀行のマテリアリティ・KPI	3
(3)	常陽銀行のサステナブルファイナンスとその意義	4
2.	サステナブル預金フレームワーク	4
(1)	本フレームワーク策定の目的及び背景	4
(2)	本フレームワークの概要	5
(3)	本フレームワークにおける資金管理	5
(4)	レポートニング	5
3.	第三者によるレビュー	6

1. 株式会社めぶきフィナンシャルグループのサステナビリティに関する取り組み

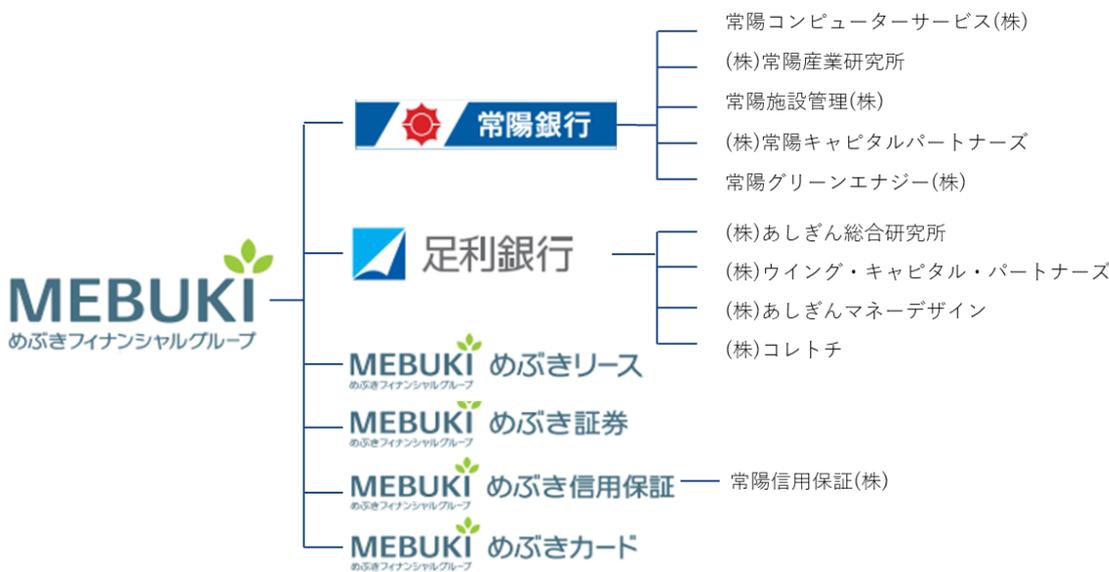
(1) 株式会社めぶきフィナンシャルグループのサステナビリティに関する方針等

株式会社めぶきフィナンシャルグループ（以下、めぶき FG）は、グループ経営理念「質の高い総合金融サービスの提供を通じ、地域とともに、ゆたかな未来を創り続けます。」に基づき、地域の課題解決をはかることを通じて、持続可能な地域社会の実現と企業価値の向上に努めてまいります。

めぶき FG はサステナビリティを巡る課題を重要な経営課題として認識し、地域の課題解決と持続的な成長とともに、当社グループの持続的成長と企業価値向上の好循環をはかることを目的として「グループサステナビリティ方針」を制定し、積極的な取り組みを行っています。

めぶき FG の子銀行である株式会社常陽銀行（以下、常陽銀行）は、「健全、協創、地域と共に」という経営理念のもと、堅実な営業、健全な経営を行い、お客さま・地域・株主の方々と共に価値ある事業を創造していくことにより、地域社会・地域経済の発展に貢献してまいります。

＜めぶき FG グループ概要（2025 年 4 月 1 日現在）＞



(2) 重要課題（マテリアリティ）と KPI

めぶきFGは、「グループサステナビリティ方針」の制定に際し、地域金融グループとして、また、企業市民として、持続可能な地域社会の実現に向け最大限貢献するため、特に重点的に取り組むべき5つの重要課題（マテリアリティ）を設定しました。

＜重要課題（マテリアリティ）＞

項目
地域産業の成長支援
安心で豊かな暮らしへの貢献
脱炭素社会・環境保全への貢献
お客さまに選ばれ続けるサービスの提供
価値創造を支える経営基盤の強化

めぶきFGは、持続可能な地域社会の実現と企業価値の向上を目指し、サステナビリティに関する基本姿勢や目標を明確化するため、「サステナビリティ長期KPI」を設定しています。常陽銀行およびめぶきFGは、今後も地域金融機関として、地域の課題解決に向けた取り組みを強化し、長期KPIの達成を通じて、持続可能な地域社会の実現に貢献していきます。

＜めぶきFG 長期KPI＞

項目	内容
サステナブルファイナンス(2021年度～2030年度累計)	3兆円 (うち環境分野2兆円)
CO2排出量 (Scope1&2) 削減目標(2030年度)	ネット・ゼロ
代理以上に占める女性比率 (2027年度末時点)	27%以上

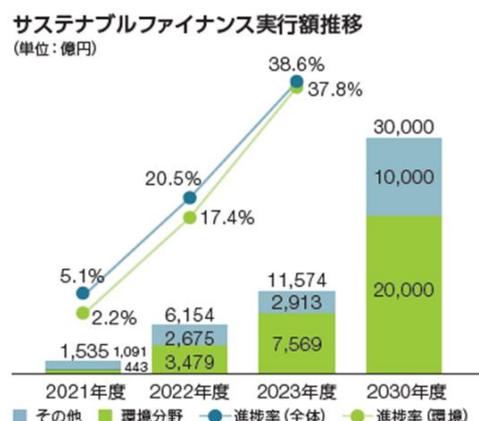
(3) 常陽銀行のサステナブルファイナンスとその意義

常陽銀行およびめぶきFGでは、サステナブルファイナンスについて、関連する外部基準（グリーンローン原則、グリーンボンド原則、およびソーシャルボンド原則など）を参考に、「環境・社会課題の解決を通じて持続可能な社会の実現を目指すお客さまの活動を支援するファイナンス」を対象範囲としています。

2021年度～2030年度までにサステナブルファイナンス3兆円、うち環境分野のファイナンス2兆円の実行目標を設定しており、目標達成に向けて取り組んでいますが、2021年度～2023年度の累計実績は、1兆1,574億円、うち環境分野7,569億円となりました。

今後も、サステナブルファイナンスの提供により、環境・社会課題の解決を通じて持続可能な社会の実現を目指すお客さまの活動を支援していきます。

「サステナブルファイナンス」の定義	
関連する外部基準（グリーンローン原則、グリーンボンド原則、ソーシャルボンド原則など）を参考に、「環境・社会課題の解決を通じて持続可能な社会の実現を目指すお客さまの活動を支援するファイナンス」	
環境分野	再生可能エネルギー事業など気候変動の適応・緩和に資する事業 再エネ・省エネ・カーボンニュートラルに資する設備投資 等
社会分野	地域活性化、地方創生に資する事業 スタートアップ企業の育成、雇用の創出等に資する事業 等



2. サステナブル預金フレームワーク

(1) 本フレームワーク策定の目的及び背景

常陽銀行は、本フレームワークに基づくサステナブル預金（以下、本預金）を原資として、特に環境分野に着目し、サステナビリティへの取り組みを強化します。本預金により、持続可能な社会の実現を目指すお客さまへ、預金を通じたESGへの取り組み機会を提供いたします。本預金によって調達した資金を環境改善事業に還流することで、サステナビリティの実現に向けた取り組みが循環する地域社会の実現を目指してまいります。

(2) 本フレームワークの概要

① 本預金の資金使途

本預金で調達した資金について、下表に該当するもののうち、常陽銀行が選定するファイナンス（以下、適格ファイナンス）に充当します。

i	グリーンプロジェクトに対する過去 5 年以内に実行されたファイナンス。グリーンプロジェクトとは、環境課題の解決に貢献する事業を指します。充当するグリーンプロジェクトの選定にあたって、常陽銀行ストラクチャードファイナンス部が取扱う太陽光発電に関する事業への貸出金を対象とします。
ii	常陽銀行ストラクチャードファイナンス部が実行する、第三者機関から国際原則等に関する評価又は第三者意見を取得しているグリーンローン、サステナビリティ・リンク・ローン。

本預金の通貨は円または米ドルとします。また、本預金の預入期間はサステナブルファイナンスの多くが中長期的な成果を求める性格であることを鑑み、6 か月または 1 年ものとします。

② 選定プロセス

常陽銀行営業企画部および市場国際部は、本フレームワークに適合する投融資を選定し、その適合の確認を行います。充当にあたっては、営業企画部長および市場国際部長の承認をもって決定します。

③ 外部評価

常陽銀行は、本フレームワークに関して、国際原則等に基づく確認に関する第三者意見を日本格付研究所から取得しています。

(3) 本フレームワークにおける資金管理

常陽銀行は、本預金残高と本フレームワークの対象とする投融資残高（本投融資残高）を確認し、本投融資残高が本預金残高を上回る状態を維持するように管理を行います。本預金残高が本投融資残高を上回った場合、その超過分は現金又は現金同等物で管理を行い、可能な限り速やかに投融資先に充当することでこの超過分を解消するように努めます。

(4) レポーティング

常陽銀行は、本預金残高が存在する限りにおいて、下記項目を年 1 回 WEB サイトにて開示します。

- 本預金の預入残高
- 適格ファイナンスの分類別充当金額
- 本預金の預入残高が適格ファイナンスへの充当総額を超過していないこと
- 適格ファイナンス毎のインパクトによる貢献が期待される SDGs に係る 17 のゴール（一部ファイナンスに限る）
- 環境改善効果を示す指標として、送電系統で供給される再生可能エネルギー・プラントの生産能力（見込）（MW）
- その他、適格サステナブルファイナンス分類毎に発現が期待されるインパクトの定量的な指標（分類毎に開示が必要な場合において対応する）

3. 第三者によるレビュー

常陽銀行は、本フレームワークの対象となる投融資のポートフォリオとそれから発現するインパクトに関して、必要に応じて J C R からレビューを受け、そのレビュー結果を公表します。レビューを依頼する際には、常陽銀行営業企画部および市場国際部は JCR に対してレビューに必要な情報を提供します。同部はレビューにおいて JCR に対して提供する情報の正確性に係る専門性を担保するように努めます。

以上